

## 治療抵抗性統合失調症とクロザリル(一般名：クロザピン)

統合失調症とは、幻聴や妄想、意欲低下、引きこもりなどの症状が出る精神疾患です。日本にはおよそ 80 万人の患者さんがいるといわれています。近年薬物療法の進歩により、多くの患者さんが薬を飲みながら社会生活を送れるようになってきました。しかし、数種類の統合失調症治療薬を、十分な量、十分な期間、服用していても精神症状が改善しない方がいらっしゃいます。これを「反応性不良」といいます。また、副作用が生じやすいため、十分な量の薬を飲むことができず、そのために、病状が良くならない方もいらっしゃいます。これを「耐容性不良」といいます。この「反応性不良」と「耐容性不良」をまとめて、「治療抵抗性」と呼んでいます。

クロザピンは、治療抵抗性統合失調症に有効とされる唯一の薬剤です。国内の臨床試験では治療抵抗性統合失調症の患者さんの約 67%に改善が認められています。ただし、クロザピンは有効性が非常に高いのですが、無顆粒球症、白血球減少、高血糖、心筋炎などの重篤な副作用が出ることもあり、初回投与開始から原則 18 週間は入院して頂くとともに、定期的な血液検査を受けて頂く必要があります。また、心電図、胸部エックス線検査、心臓超音波検査などの検査も必要になります。

クロザピンの治療は、どの病院のどの医師でもできるものではなく、一定の要件を満たした病院で、一定の知識や経験を持ちクロザピンの講習を受けて審査を通った医師にしか行うことができません。当院ではクロザピンによる治療抵抗性統合失調症の治療を積極的に行っております。当院における受診・相談の窓口は地域医療連携室になりますので、お気軽にご連絡下さい。(直通電話：052-861-1201)



### 《受診希望の方へ》

クロザピンを使ってみたい、詳しい説明を受けたい、とお考えの方は、現在かかっている主治医に相談し、紹介状を発行して頂くようお願いいたします。初回受診時にご家族のみでも可能です。(保険適応外のため精神保健相談料を頂きます。)電話にてご予約下さい。

### 《医療関係者の方へ》

クロザピンが適応となる治療抵抗性統合失調症の患者様の紹介をお考えの先生は、当院地域連携室にお問い合わせください。患者様の診療情報をもとに、クロザピンによる治療を前向きに検討させていただきます。